

美吉野園法人研修

平成 30 年 3 月 14 日、社会福祉法人 佛子園 理事長 雄谷 良成様を石川県より講師としてお招きし、当園イーストホールにて「地域共生社会の可能性」についてご講演頂きました。

「地域共生社会」というテーマでもあり、普段お付き合いのある地域の各関係機関の方々へもご案内させて頂き、多数の方が参加下さいました。

講演のキーワードは、『ごちゃまぜ』!!

高齢者、子ども、地域の方々、障がいのある方ない方に関わらず、いろんな人が楽しく生き生きと共に暮らせる街「地域共生社会」の実現に向けて学ばせて頂きました。

雄谷様は、生まれた時からお寺の住職である祖父が立ち上げられた知的障害児入所施設の社会福祉法人 佛子園の中で小学校中学年まで大勢の障害を持たれた方と一緒に寝食を共に過ごされた環境から、障害者の心理を知りたいと大学へ進学され特別支援教員の免許を取り、特別支援学校の教師に就任されました。その後、障害者教育のスペシャリストを育てたいと青年海外協力隊に志望を出され、ドミニカ共和国へ赴任されました。その中で、ドミニカ共和国の人の幸福度が強い国であること、助け合いの精神に触れ、ドミニカ共和国で病院を建設されました。その時に、色々な人が集まるコミュニティを作りたいと思われた事が、社会福祉法人 佛子園の「三草二木 西園寺」や「Share 金沢」の原点になっているそうです。その後、日本に帰国し、地域の風土や経済等の把握をされるために新聞社へ入社され、様々なことを学ばれ、佛子園の卒業生が就職した職場で虐待を受けているということを知り退社され、社会福祉法人 佛子園に戻られました。その後、佛子園は、祖父が立ち上げられた障害児施設の一つだけだった為、重度心身障害者施設の「星が岡牧場」や障害のある人が安心して働ける場所を作ろうと「日本海倶楽部」を設立、その後必要とされる施設や事業を立ち上げられ、一つの街にされました。



高齢者、子ども、地域の方々、障がいのある方ない方が一同に集まる「三草二木 西園寺」ならではのエピソードを教えて頂きました。重度心身障害者のご利用者(以下：彼)の首の可動域が、認知症のご利用者(以下：女性)によって、30度以上増えたということです。彼に対して、女性が持ってきたゼリーを食べさせようとしたのです。最初は女性も手が震えていることや、彼も顔の近くまで持ってきてくれているのは分かるのですが、首を動かさないのでは中々口に入らない…もどかしい思いをしていましたが、毎日繰り返していくうちに1週間後には口の中に入る様になっていたのです。さらに2、3週間後には一発で口の中に入るようになっていました。介護のプロがどんなにリハビリをしても10度から15度可動域が増えただけだったのに対し、女性の手によって、彼の可動域が45度になったのです。それだけではなく、認知症のご利用者にも影響がでており、週2、3回していた深夜徘徊が月2、3回に減ったのです。重度心身障害者のご利用者にはゼリーをあげないと死んでしまうと思い、毎朝早く起きて西園寺に通うようになった為です。介護のプロがいくら頑張ってもできなかったことが、2人の当事者が交わったことによって両方の問題が改善されていた。つまり、人と人がかかわれば幸せになる。『ごちゃまぜ』は、第3の医療である。というお話を聞かせて頂きました。

一時間半という短い時間でしたが、雄谷様のお話に終始引き込まれ、大変意義深い研修となりました。

雄谷 良成様大変お忙しい中、美吉野園にご来園頂き、誠にありがとうございました。